

RS(T)の誤解他

JJ1SXA/池

QSOを聞いていると、貴局の信号は、RS21から31で、信号は入っているのはわかるのですが、話の内容は全くわかりませんというようなことを聞くことがありますが、これはおかしい。

R・了解度(Readability)は、次の通り定義されている。

- 1 了解できない
- 2 かるうじて了解できる
- 3 かなり困難だが了解できる
- 4 実用上困難なく了解できる
- 5 完全に了解できる

Rの定義から言うと、了解できないのはR1だけで、R2は「かるうじて了解できる」、R3は「かなり困難だが了解できる」となっている、両方共「了解できる」だ、了解できるのに、「話の内容は全くわかりません」というのは矛盾している。

だが、一般的には話の内容が全くわからないのにR2からR3を送って、それが通用しているようだ。

Sは、受信機のSメーターを読んで送っているが、私の受信機のSメーターは重いか軽いかの話も出るが、何dbの入力信号を基準にしてSメーターに割り当てるといふ決まりがある、メーカーによりあるいは機種により、あるいは無線機個体毎に若干の差があるのは仕方が無いでしょう、一説によると、見かけ上感度が良いと勘違いさせるために基準より甘めに設計しているとの話もある、Sメーターの振れは、調整用ドライバー1本でいくらでも変えられることも知っておきたいことだ。

また、RS59の場合、信号は59(ゴジウキュウ)ですと慣例で使っているが、正しくは59(ゴ・キュウ)です、fifty nineでは無く、five nineだ、RとSは、全く別のものです。

7MHzのCWで、最近は少なくなったようですが、CQ・CQ・CQ・CQ…と、延々とCQを連打している局がいた、何時になったら、コールサインを打つのだ？と疑問のCQを出すのが流行っていた、これも、CQ3回、de1回、コールサイン3回というのが電波法の決まりだ、これも以前記事に書いたことですが、名前の紹介で、「漢字解釈」は云々と言うのが当たり前で通用しているようだが、「漢字解釈」という単語は辞書に見当たらない、普通に「漢字」はこれこれと説明すれば良いのだと思う、誰がやりだしたか、誰が言いだしたかは知らないが、アマチュアはアマチュアライクで良いとしても、余りにも間違った表現、おかしい表現は止めたいものだ。

別稿で、「スカイプ経由というのは誤り、正解はゲストオペ」という記事を書きましたが、余り細かいことに目くじらを立てることも無いし、これがアマチュアの運用だと割り切れれば良いが、おかしい話は多い、原則と言うか、正しいのはこうだと理解することは重要なことでは無いだろうかと思う。